

概要

本章では対象範囲における公共空間のデザインの考え方と、第1段階を基本とした三宮クロススクエアの整備・税関線の再整備におけるデザインイメージ（ガイドライン）を示します。



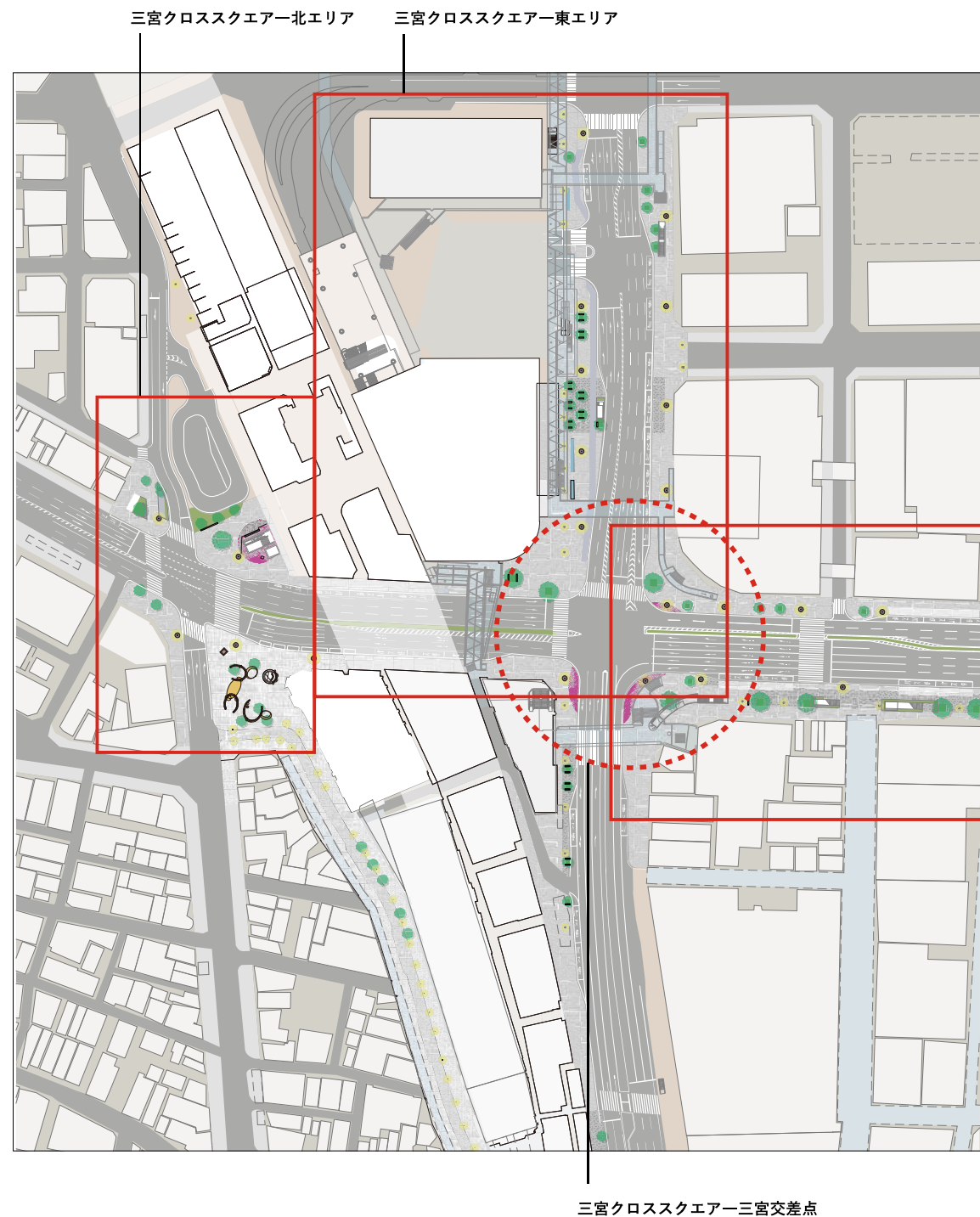
民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。





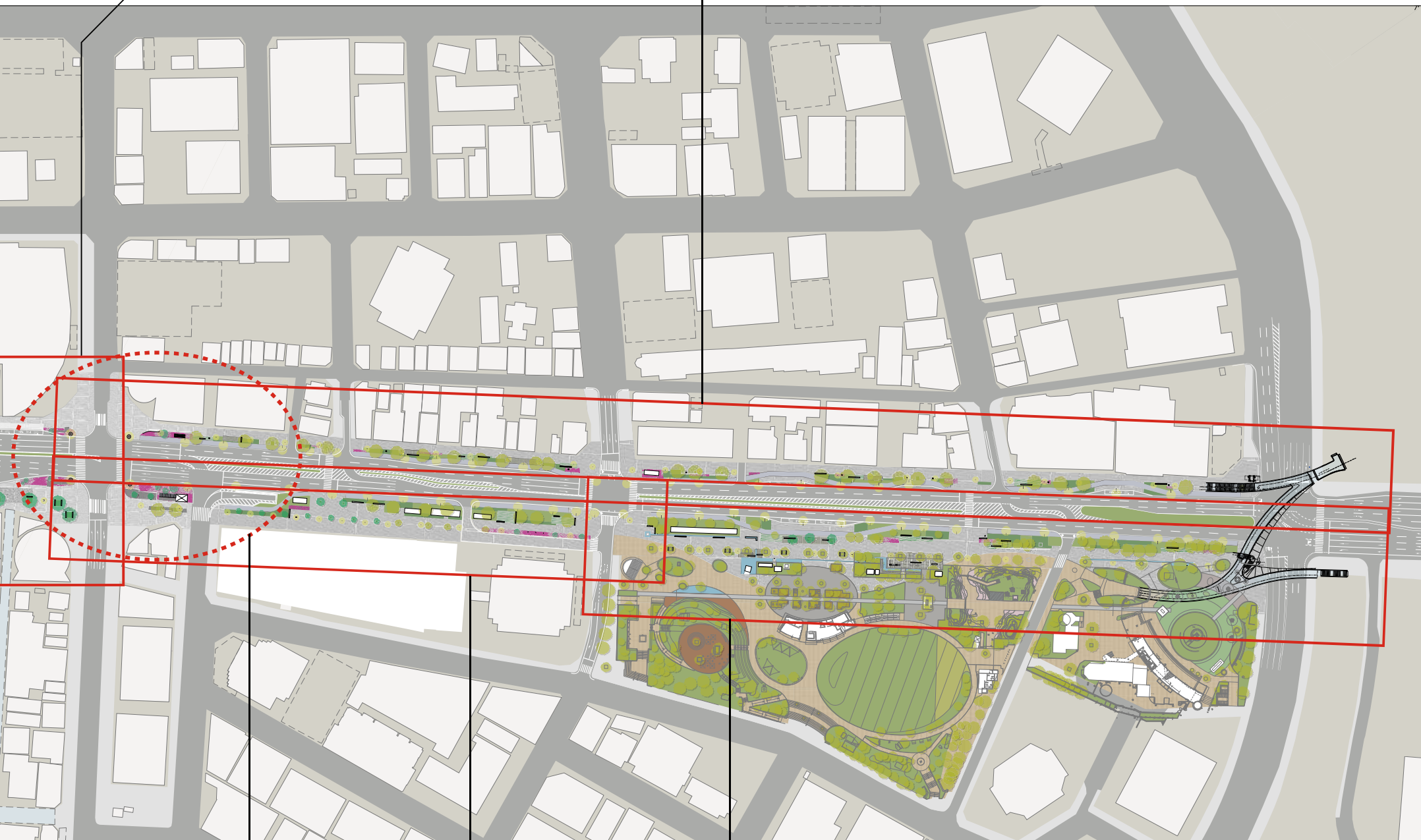
全体平面図

- 公共空間のデザインコードは、三宮北交差点～税関前交差点区間を対象とします。
- 対象範囲の計画平面図（第1段階）を右に示します。
- それぞれのエリアの詳細なイメージは図に示すページにて示します。
- 本章で示すのは現時点での計画イメージであり、実際の整備内容やデザインは変更の可能性があります。
- 整備を進めるうえでは、ユニバーサルデザインを基本とした空間とします。



三宮クロススクエア南エリア

税関線一磯上側歩道



三宮クロススクエア国際会館前交差点

税関線一神戸市役所前

税関線一東遊園地前



SCALE 1/2600

0m 20m 40m 60m 100m

デザインの考え方

デザインスキーム

基本事項

- 三宮クロススクエアは訪れる人を迎える神戸の玄関口に相応しい上質で洗練されたデザインとし、三宮クロススクエアと税関線とが一体となり神戸のシンボルロードに相応しいデザインとします。

形態

- 洗練された雰囲気形成にふさわしい、装飾を抑えたモダンでシンプルな形態を基本とし、沿道建築物との調整を図ります。



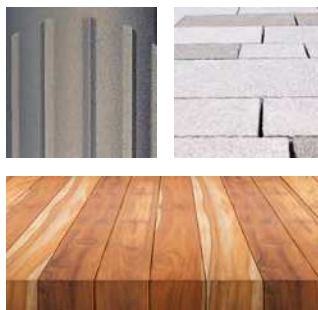
▲ 先行整備事例「サンキタ通り」

色味

- 「人が主役」として、街行く人々が映えるよう、公共空間は無彩色を中心とした低彩度の色味で構成します。
- 海や山の自然と調和した景観を形成するため、アクセントカラーの使用はできるだけ限定し、落ち着いた色彩とします。

素材・仕上げ

- 木材・石などの自然素材や、鋳鉄やアルミ鋳物など仕上りの美しい高質で穏やかな設えに寄与する素材を場所の特性に応じて用います。
- 打放コンクリート等の単調で人工的な素材を使用する場合は、無機質な印象を与える空間とならないようボリュームを極力抑えるほか、手前に彩りある植栽を配置するなどの工夫を施します。



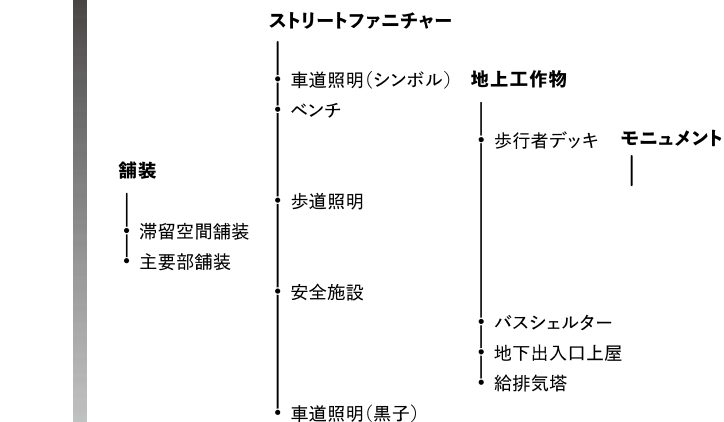
▲ 素材のイメージ

要素間の関係

- 魅力的な都市景観の条件として、公共空間を構成する要素に統一感と秩序があることと、変化に富んだ要素が街行く人々を楽しませることの両立が必要であるといえます。
- したがって、公共空間を構成する要素を景観の中で目立たせるもの、目立たせないものに分け、優先順位を下图のように設定した上で各要素のデザインを検討します。
- 本計画範囲においては、特に「人が主役」として人々の服装やアクティビティなどの様子、加えて神戸を象徴する空間として花や緑を最も引き立たせることを原則とし、各要素のデザインを検討します。

目立たせる

人々の服装やアクティビティ、花や緑を最も引き立たせる



目立たせない

▲ 要素間の関係

舗装

- 色味は人の活動や花や緑が映えるよう無彩色を基調とします。

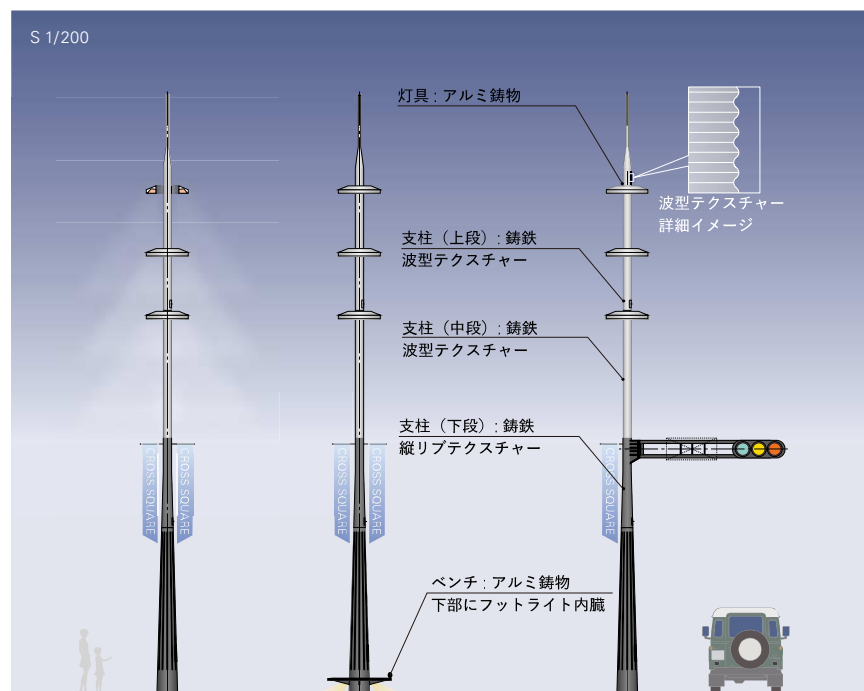
三宮クロススクエア

- 上質で洗練された空間として、神戸の玄関口にふさわしい特別感を演出するため、自然石舗装とします。
- 税関線の道路縦断方向に縦目地を通して空間に緩やかな方向性を与えつつも、大判の石材を使用することでゆったりとした落ち着いた趣を演出します。

税関線

- 税関線の道路縦断方向に縦目地を通し、空間に緩やかな方向性を与えつつ、生田川の記憶を継承する「流れ」のイメージを表現し、軸性を演出します。
- 水の流れときらめきをイメージした細長い材（ベース材）と白く短い材（アクセント材）を組み合わせ、自然と歩きたくなる心地よい流れを演出します。

▼例：三宮クロススクエア車道照明のデザインイメージ



ストリートファニチャー

- 照明やベンチ、ポラードは、素材や色味、プロポーション等互いにデザインに共通性をもたせ、統一感のある景観を演出します。
- 信号や標識などは、車道照明に極力共架させることで、景観の向上を図るとともに、車道照明にはバナーを取り付けられるようにすることで、にぎわいの形成や情報発信に寄与します。

地上工作物

- 地下街/地下駐車場の出入口・給排気塔、バスシェルターなどの地上工作物は、それ単体で主張せず、周辺の木立や街路景観の中に溶け込み、馴染むデザインとします。

地下出入口上屋

給排気塔

- 歩行者の視線・動線を極力妨げない配置・形態とします。
- 地覆の周辺は植栽帯を配置し、構造物の印象を和らげます。
- 街路全体の統一感を演出するとともに、各エリア周辺状況に合わせたデザインとします。

▶ 植栽の背景となる給排気塔のデザイン



モニュメント

- モニュメントの新設にあたっては、それが高質で穏やかな都市景観の形成に寄与するよう十分に検討を行った上で行います。
- 道路上に位置するモニュメントは、効果的に人々の目にとまり、楽しみを与えるような配置とし、滞留空間の居心地の良さを演出します。

▶ 舗装イメージ

三宮クロススクエア

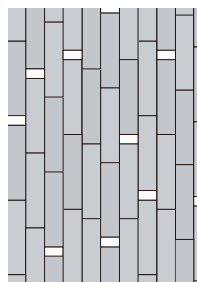
神戸の玄関口にふさわしい特別感を演出する大判の石材
(ゆったりとした落ち着いた趣)



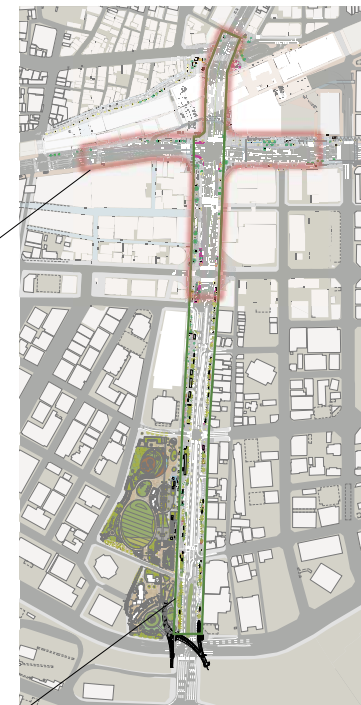
御影石

税関線

水の流れときらめきをイメージした細長い材と短い材との組み合わせ
(自然と歩きたくなる心地よい流れ)
※三宮北交差点から布引交差点の区間についても、舗装更新時には舗装材の色味・配置の考え方を踏襲する。



ベース材：ILB
アクセント材：御影石

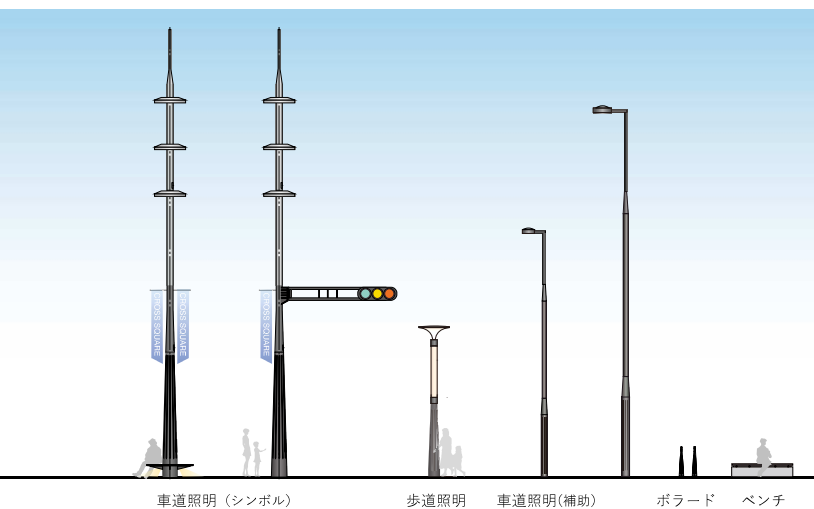


S 1/2500

▶ ストリートファニチャー
連続立面図

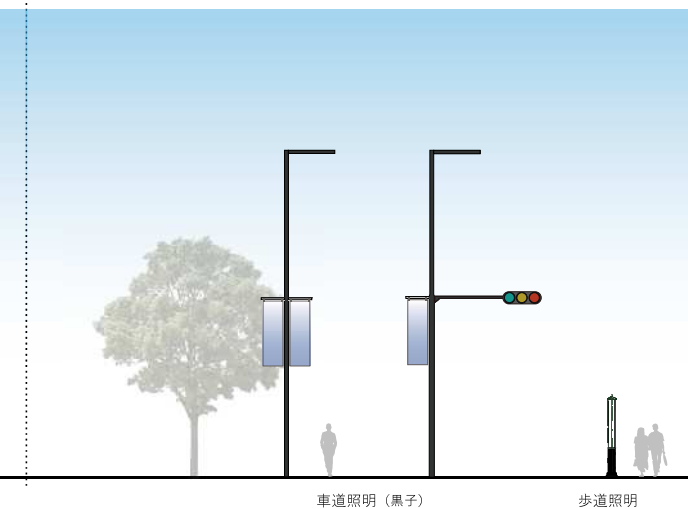
三宮クロススクエア

玄関口にふさわしい上質で洗練されたデザイン



税関線

シンボルロードにふさわしい高質なデザイン



花とみどり

神戸では「自然と共に暮らす都市・神戸」を目指し、SDGs、グリーンインフラなどの考えを取り入れた新たな花と緑の戦略である「Living Nature Kobe」を立ち上げ、都市の中に花と緑の高質な空間「自然の景」を創出することで、先取性のある花のまちとしての神戸ブランドを形成します。

都心・三宮の再整備では、神戸が有する六甲山系の緑など自然が身近にあるという神戸の地勢上の特徴を生かしながら、先進性のあるデザインや新しい技術等を取り入れていくことで、都市の中で自然を感じられるよう神戸ならではの花と緑の魅力づくりを推進していきます。

花・緑の役割

都心における魅力的な景観づくりだけでなく、居心地の良さや回遊性の向上、健康増進、環境共生への取り組みにつながります。

- ・ 居心地の良い空間の創出
- ・ 訪れるたびに変化のある空間づくり
- ・ SDGsや環境共生など都市の持続可能な発展に資する取り組み
- ・ 訪れたい、歩きたい空間の創出
- ・ 健康づくりやコミュニケーションの場の創出

「自然の景」の創出

自然を感じる草植栽の景「Naturalistic Landscaping」のコンセプトを「緑」の基盤としながら、イメージづくりや集客などに貢献する花によるアート空間「Floral Installation」をアクセントとして見せていきます。

一年を通じた季節の変化
SDGs 的

〈時間の捉え方〉

一時的な空間の変化
SNS 的

Naturalistic Landscaping (自然を感じる草花植栽の景)

一年を通じて自然の変化やリズムを楽しむことができる草植栽の手法



Floral Installation (花によるアート空間の演出)

最盛期の花の美しさを活かし、アートの花で飾られた空間を演出する方法



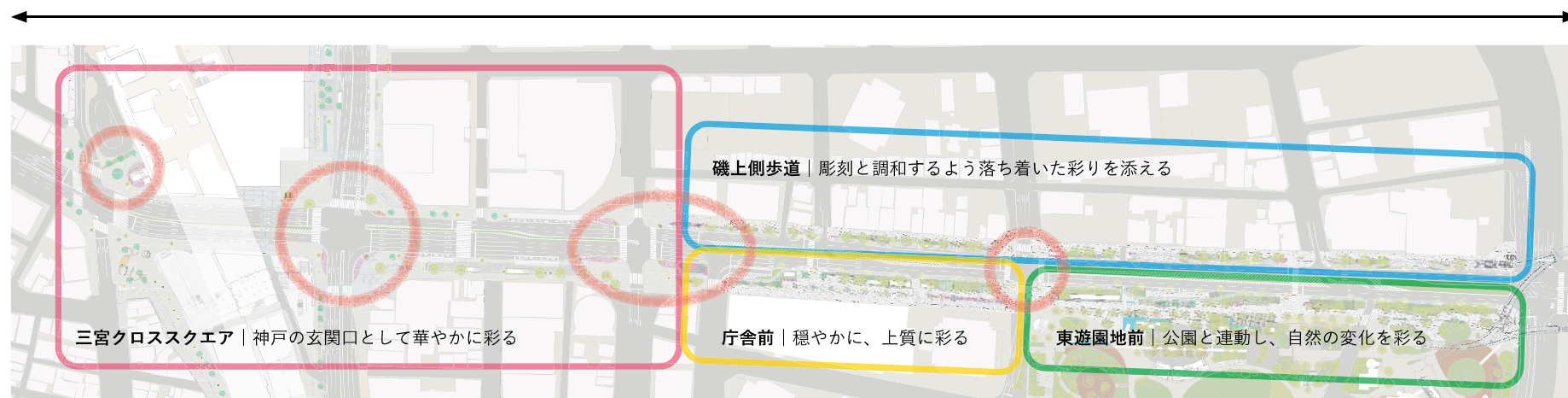
兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学
緑環境景観マネジメント研究科

「えきまち空間」・税関線における展開

- ・「フラワーロード」の愛称にふさわしい高質な花の設えとします。
- ・「Naturalistic Landscaping」と「Floral Installation」の組み合わせにより、花と緑の演出を行います。

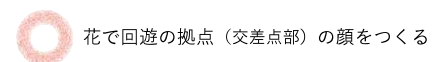
Naturalistic Landscaping

開花期だけではなく、あらゆる生育過程における植物の個性に目を向けることで、一年を通じてその自然の変化やリズムが楽しめる空間を創出する。



Floral Installation

花の瞬間的な価値を生かしたアート空間として、一時的な空間の変化を演出することで、新しい人の流れを創出する。



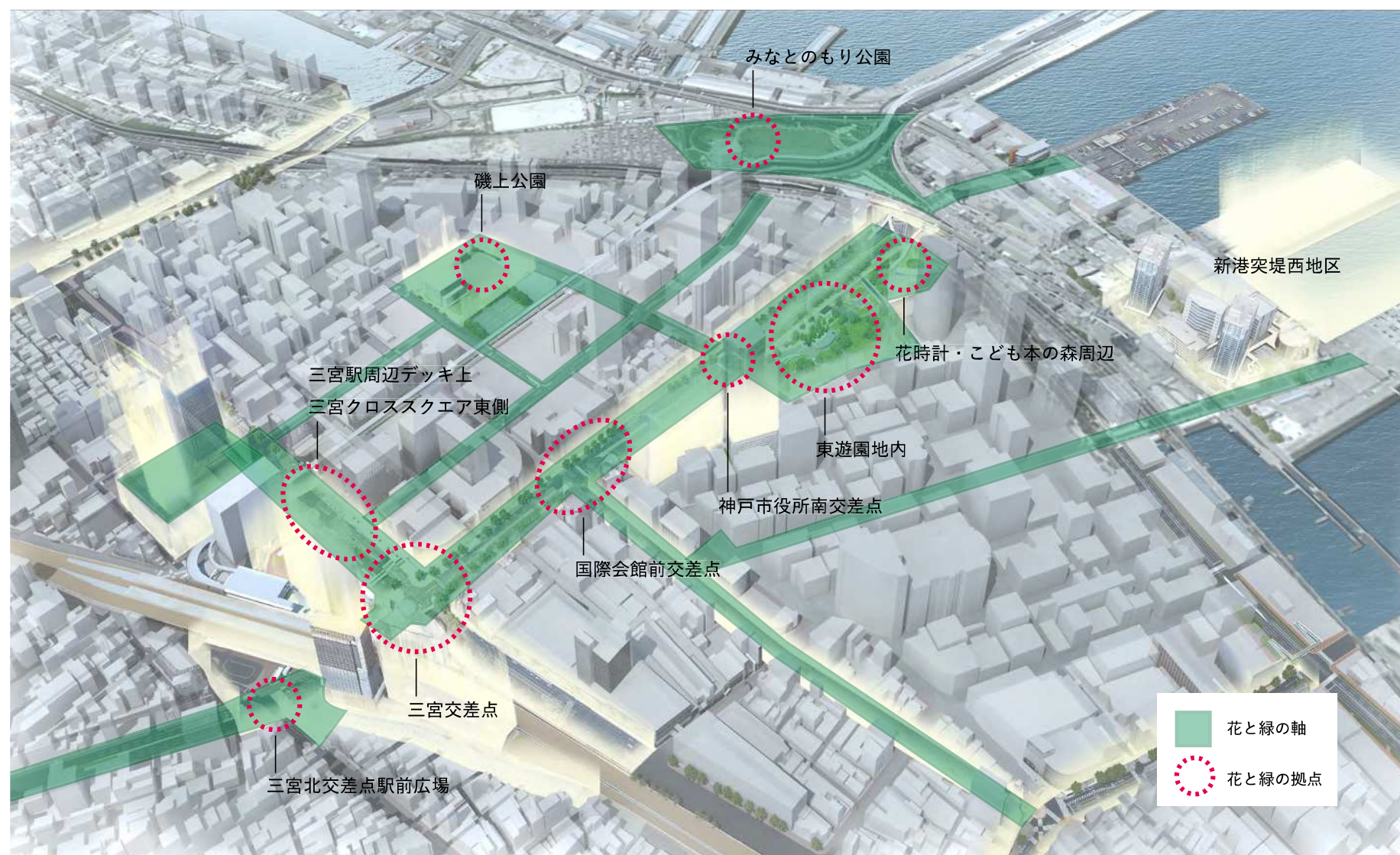
植栽手法

四季の変化を感じる 自然風植栽	環境と共生する 技術による植栽	映える景をつくる 立体的な植栽
宿根草と一年草の風景調和 宿根草と一年草を組合せ、植栽が周囲の自然やまちなみと一体となる風景をつくる。	環境に合う植物選び 地域の気候や土壌に合った場の環境を理解し、必ず環境に適した植物を選ぶ。	立体感のある植栽表現 草丈の異なる植栽を組合せ、立体的なガーデンデザインを表現する。
季節を通じた植物の変化 生長サイクルの異なる植物を組合せ、それぞれの開花や結実までの生長の違いを見せる。	自然環境を再現する 造園技術により植物が淘汰を繰り返す、渾然一体と育つ環境をつくりだす。	植物の色合い・形状・素材感を活かす 花や葉の異なる色や形、植物の葉・茎・花・種の質感の組み合わせによって、植物の立体的なリズムを生み出す。



都心・三宮の再整備における花と緑の展開

都心・三宮の再整備における「Living Nature Kobe」は、東遊園地を旗艦サイトとして中核に位置付け、「えきまち空間」や税関線、磯上公園等において取り組みを進めていきます。



三宮クロススクエア・税関線では、景観形成方針にある「にぎわいある上品な夜間景観の創出」を行います。既往の「神戸市夜間景観形成実施計画（都心・ウォーターフロントエリア）」や「まちのあかりのガイドライン（税関線沿道南地区）」に基づいて上品な夜間景観を形成するとともに、人が主役として映えるよう、人のアクティビティを照らし、楽しく歩けるにぎわいある街路景観を演出します。

基本事項

- ・ 上品で居心地の良い空間を演出する夜間照明の具体化のために、「まちのあかりガイドライン」にて示す光の7つの原則に従って照明を配置・デザインします。
- ・ 照明の種類に関わらず、温かみがあり賑わいの感じられる電球色（色温度3000K程度）での統一を基本とします。
- ・ 夜間照明は安全で快適な夜の屋外環境に欠かせませんが、過度な照明は上品さを損ないます。路面を照らす車道照明・歩道照明・フットライトは歩行者や車両の通行に必要な路面照度等をはじめ、明るさを効率よく確保するよう、照明の選択やピッチの設定を行います。

車道照明

- ・ 三宮クロススクエアは神戸を象徴する上質で洗練された空間を演出するため、シンボル性のある車道照明を使用します。車道照明の柱自体が光を反射することで、光の柱が連続するリズムカルでシンボリックな夜間景観を演出します。
- ・ 税関線は落ち着いた夜間景観を演出するため、車道照明は照明器具を主張せず景観に溶け込むものとします。

歩道照明

- ・ 歩道照明は時間や季節による様々な演出や、「花」、「緑」、「彫刻」のライトアップ等による「光のミュージアム」として、上品な夜間景観を演出します。

▼ 光の7つの原則

- 1 鉛直面の輝度を重視する —— 少ないエネルギーで街に明るさ感を与える
- 2 グレアフリー —— 目に優しい景色をつくる
- 3 最適な色温度 —— 安らぎと緊張感を演出する
- 4 高い演色性 —— 人や緑を美しくみせる
- 5 快適な陰影 —— リズミカルな明るさを分布させる
- 6 オペレーション —— 刻々と変化する夜景を演出する
- 7 適正照度 —— 効率的に明るさを確保する

▼ 照明の配置・デザインイメージ



エリア毎の夜間景観の考え方

三宮クロススクエア

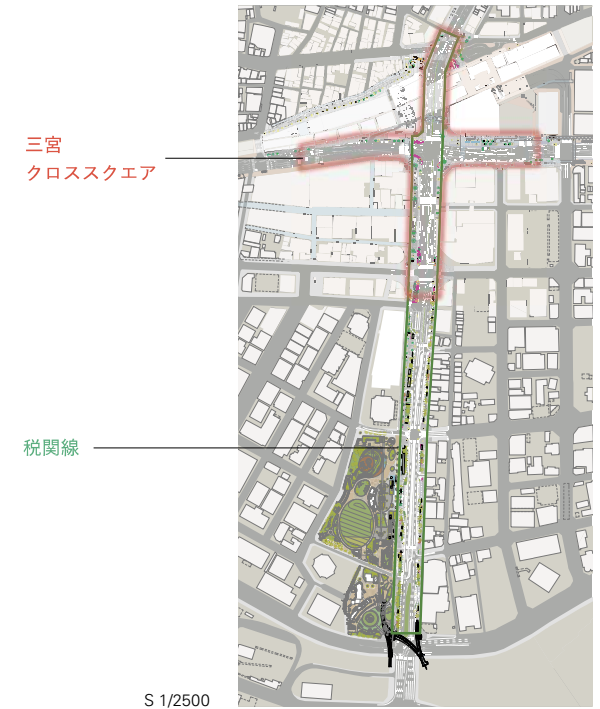
洗練された照明や沿道建築物から漏れ出る明かりにより、通りへのにぎわいの連続性を演出することで、神戸の玄関口にふさわしい上品な夜間景観を演出

- 人々が集まりやすい駅前の広場空間を照明灯に加え、ベンチ等のフットライト、植栽帯や水景施設へのライトアップなど、様々な照明を組み合わせることで、にぎわいのある夜間景観を演出します。
- シンボル性の高い照明の連続により印象的な夜間景観を演出します。

税関線

フラワーロードのシンボルである「花」「緑」「彫刻」を活かし、ライトアップなどによる「光のミュージアム」をテーマとした道路空間の創出および軸性の演出や回遊性の向上

- ベンチのフットライトや地下出入口上屋等の地上工作物を利用したライトアップにより道行く人々の足元をさりげなく照らし、上品に彩ります。
- ウォーターフロントや海岸通りへのアプローチを演出します。



▼ 照明の連続立面図

三宮クロススクエア



税関線



SCALE 1/300

異常高温対策

近年、「これまでに経験したことのないような」異常高温が発生し続けており、屋外公共空間においても、異常高温対策の取り組みを強化してきました。人が集中する三宮都心部においても、効果的な異常高温対策を組合せ、重点的に実施します。

モノの温度を抑制する
(地表面の温度抑制)

- ・ 温度上昇を抑える舗装材の使用
(色彩、雨水貯留、保水)
- ・ 木陰、緑陰空間の増加

夏季に涼しさを感じる
居心地の良い空間へ
(体感温度の抑制)

- ・ クールスポットの導入
(ミスト、水盤、せせらぎ等)

▶ 雨水貯留浸透基盤の整備イメージ
※東遊園地内で試験的に実施した後、三宮クロススクエアや税関線で実施を検討
図：(一社)グリーンインフラ総研



▶ 緑陰空間のイメージ



▲ クールスポットのイメージ

防災

不測の災害に対しても対応可能な、しなやかで強いまちを目指します。

「三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画」を踏まえ、不測の災害時に来街者等が混乱なく安全・安心に過ごせるように官民が連携したハード・ソフト両面での取り組みを進めます。ハード面では「三宮クロススクエア」をはじめとする屋外の公共空間や「雲井通5丁目再開発ビル」をはじめとする建築物の内部空間において、来街者等の安全を確保するための施設整備を進めるとともに、ソフト面においては、共助による帰宅困難者対策のための即時性のある情報連携の仕組みづくり等を進めます。

一時退避場所 災害時に滞在者等がすぐに退避できる、あるいは一時滞在施設開設までの数時間を安全に過ごすことができる広場やオープンスペース等の退避空間の確保

一時滞在施設 公共空通機関の運行停止などにより徒歩で帰宅不能な帰宅困難者を最大3日程度収容する安全・安心な空間を創出

備蓄倉庫 一時滞在施設をはじめ、地域内施設における帰宅困難者向け備蓄施設の確保

退避経路 災害時は救援活動等を避けながら一時退避場所や一時滞在施設へ移動可能な退避経路としても利用できる広い幅員のゆとりある歩行者空間の確保

その他の施設等

- ・ 発災直後、迅速・的確に災害情報や公共交通機関の運行状況、一時退避場所・一時滞在施設の情報を提供できる設備の確保（ユニバーサルデザインの視点やインバウンド対応、多言語対応を前提とした情報通信施設の整備）
- ・ 新たな中・長距離バスターミナルを帰宅困難者の代替輸送に活用

▼ 退避経路：葺合南54号線



▶ デジタルサイネージ



▼ バスによる
帰宅困難者の輸送



感染症に強いまちづくり

新型コロナウイルス感染症の影響により新たな生活様式が推奨される中、換気の良い屋外空間の利活用の重要性がより高まっています。また、広場をはじめとする屋外空間では来訪者の数による評価だけではなく、三密を避けた日常の使い方に対する価値観が高まり、「居心地の良さ」がこれまで以上に重視されています。このような状況を踏まえ、都心・三宮の再整備では、まちづくりのマクロな視点として、道路や広場空間と沿道建築物が一体となった風通しの良い広く豊かな屋外空間を創出するとともに、それらをつなぐウォカブルな空間の整備などにより魅力的な屋外空間のネットワークを形成します。

さらに、屋外空間の整備にあたっては、身体的距離の確保や混雑度の可視化など、新しい技術や制度を活用した感染症対策を行いながら、人が主役の居心地の良い空間を創出することにより「感染症に強いまちづくり」を目指します。

さんきたアモーレ広場



サンキタ通り



三宮プラッツ



三宮クロススクエア東側



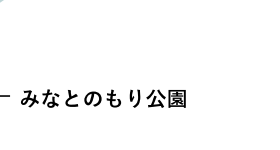
三宮クロススクエア南側



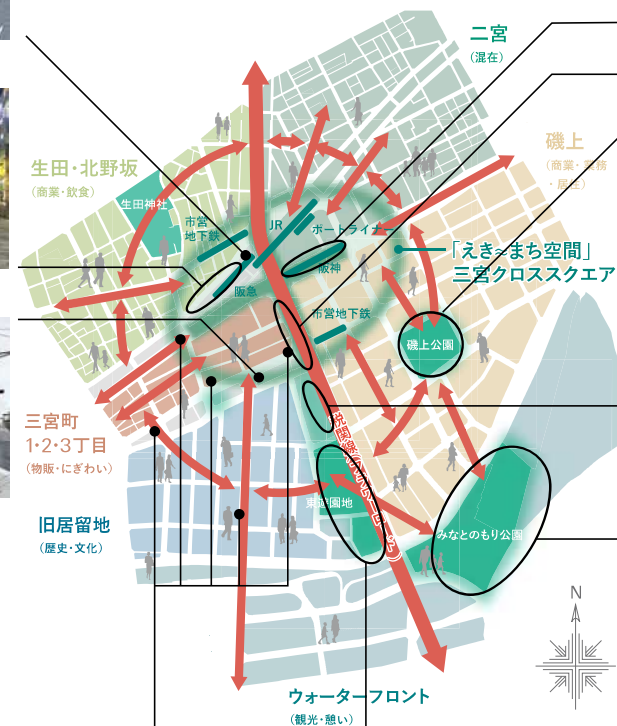
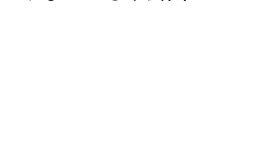
磯上公園



神戸市役所本庁舎2号館の市民利用空間



みなとのもり公園



KOBEパークレット



東遊園地(公園)



具体的な対策例

- 沿道建築物と一体となった空間の整備
- 開放的な自然を感じる空間の確保
- フレキシブルな空間の利活用
- パーソナルスペースを大切にした空間の整備
- データ・新技術等を活用した情報発信・啓発等

公共空間と沿道建築物が一体となったシームレスな設えにするとともに、道路占用の許可基準の緩和制度を活用



可動式ファニチャー等の設置が可能な、様々な形態に対応できる空間の創出



日常的にくつろげ、また多様なプログラムやイベントに対応できる芝生広場の創出



デジタルサイネージを活用した安全・安心情報の発信

